

この学校にわたしたち

2023. 9. 11

NO 30

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から①

本年4月18日（火）に、小学校6年生と中学校3年生を対象にした全国学力・学習状況調査（以下、学力調査）が実施されました。

この調査には、学力についての「教科に関する調査」と、学習状況についての「質問紙調査」があります。このうち「教科に関する調査」についてかつては、主に知識に関する問題（A）と主に活用に関する問題（B）に分けて出題されていました。最近では、知識に関する問題と活用に関する問題が一体的に問われる形となり実施されています。

- 1 令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果は下記表のとおりでした。
【令和5年度全国学力・学習状況調査結果・平均正答率】

平均正答率	国語	算数
本校	73%	64%
三重県	67%	62%
全国	67.2%	62.5%

- 2 出題の範囲や内容については以下のとおりでした。
- ・ 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項
 - ・ 出題内容：下記の(1)と(2)を一体的に問う。
 - (1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - (2)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

【全国学調について】この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で行われています。また、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

- 3 本校児童の傾向性や授業での対応について
本校児童の傾向性や授業での対応につきましては次号でお知らせさせていただきます。

この学校にわたしたち

2023. 9. 8

NO 29

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から ②

三重県や全国の正答率と比較した場合、令和4年度まで5ポイントから10ポイント程度下回っておりましたが今年度は初めて国語で6ポイント、算数で2ポイント県や全国を上回る結果となりました。（令和5年度は理科の調査は行われていません。）

国語

《課題となる部分》

図表やグラフなどを用い、条件に合わせて自分の考えをまとめるという問題で、正答率が低い結果となりました。グラフを含めた複数の情報を理解し、自分の考えが伝わるように決められた文字数で書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。

《今後に向けて》

国語では、他の学年の児童に対して、紹介文を書くなどただ文章を書くのではなく、目的意識を持って文章を書くようにしていきます。1学期に行ったおすすめの本を紹介するピブリアバトルの取り組みも継続して行っていきます。また、国語以外においても算数・理科・社会においても日頃から、表やグラフを丁寧に読み取る機会を多く取るとともにそこから考えられることなどを決められた文字数でまとめる機会を多く持つようにしていきます。

算数

《課題となる部分》

「テープを直線で切って作った三角形の面積を比べる問題」や「() のある計算」「ひっ算の意味を問われる問題」において正答率が低い結果となりました。いずれの問題も三角形の面積を求める公式や() を使った計算、ひっ算の仕方についての基本的な知識はあるもののその知識が生かされていないところに課題があると考えられます。

《今後に向けて》

授業では単に公式を覚えているかや答えだけに終始せず、授業の中で1人1人が「どうやって考えればよいのか」という過程を重視し、自分の考えをノートにまとめたり、発表したりする機会を多く持つようにしていきます。また、「分からない」ことをクラスで一緒に話し合いながら、誰一人取り残さない授業づくりをすすめていきます。同時に朝の学習時間や家庭学習においてICT機器（タブレット）を積極的に活用しながら、基礎学力の定着に努めていきます。

児童質問紙

《読書・家庭での学習習慣》

「家で計画的に学習しているか」に対して「あまりしていない」と回答した割合は県・国平均の2倍近くの結果となりました。また、「学校以外で1日どれくらい学習・読書をしているか」との質問に対しても「1時間以内」「全くしない」と回答している児童の割合も同様の結果となりました。学校としましては、家庭学習（自主学習）を積極的に行っていけるよう取り組みをすすめていきたいと考えておりますのでご協力をお願いします。